

平成 30 年度 岩本町ほほえみプラザ 事業報告

I 概要

1) 利用者動向

- ・短期入所の利用実績は 81.1%(前差+9.3%)、新規利用者は 75 名(前差+12 名)と増加した
- ・通所介護は一般の利用実績 69.1%(前差-2.2%)で微減、認知デイは 32.8%(+9.8%)と増加。
- ・グループホームの利用実績 95.4%(前差-3.8%) ケアハウスは 86.3%(前差-7.7%)と低迷。

2) 職員・育成

- ・年間を通じ正職員 1 名、常勤準職員 4 名、非常勤準職員 6 名の退職。正職員 1 名、常勤準職員 3 名、非常勤準職員 9 名が入職した。退職者数は昨年度より減少している。

II 平成 30 年度事業計画についての報告

ア 利用者の満足を追求する

・「生活の快」を一人一人感じることができるよう、ケアハウス・グループホームでは、食事係と連携し、おやつ作りや、昼食づくりを行い食べる楽しみだけでなく、作ることや香りを楽しむなど「五感」で感じることが出来る活動をおこなった。デイは DVD を使った体操、個別機能訓練の実施など活動の幅が広がった。ショートステイでは機能訓練指導員を配置し、体操・アクティビティ活動など生活機能向上訓練を意識した活動を行った。

イ 家族支援・地域支援の拠点となる。

- ・多目的ホールを中心として介護予防事業（高齢者支援事業）を行ったり、地域住民の行事・活動を行ったりして、地域活動・交流の拠点となっている。ただし、利用されている人々の多くが岩本町・東神田地域に偏っており、他地域も含めさらに多くの人々に利用していただくことが今後の課題である。
- ・運営会議毎に月次の各事業の利用実績および収支状況を確認するとともに、事故再発防止の情報共有を図った。

ウ 核となる職員の定着・安心の実現

- ・非常勤の採用については、曜日だけでなく業務を限定し、補完する形での採用を行った。
- ・新入職員が多く入る中、誰もが育成に携われるよう、マニュアルの整備をする必要があり、その整備が今後の課題である。
- ・11月にストレスチェックを実施した。

エ 経営体制の確立

- ・昨年度苦戦した短期入所が目標稼働率である 80%を達成した以外はどの事業も達成せず、非常に厳しい結果となった。短期入所・通所介護は、事業説明のためのチラシ・パンフレット作成やホームページを活用したことで、利用増につながった。グループホームは、空床期間の短縮のため申し込み受付を随時受付に変更した。

平成 30 年度運営管理についての報告

- ・区からの委託事業から法人の企画運営に変更となった介護予防事業は、活動の準備や片付け、管理などサポート隊を中心に行われる活動が増え、活動の自主化に向けた流れができつつある。
- ・法人ホームページの活用、施設のフェイスブックページ開設などプラザの積極的にアピールした。
- ・次期指定管理の準備として基本協定や新規提案事業について、区との協議を行った。

Ⅲ 事業別動向

区分	成 果	課 題
短期入所	平日や月末月初の稼働も増え、隣接区の送迎も柔軟に対応した結果、実績では目標値を超えることが出来た。	統一した質の高い支援の提供と、個々の更なるスキルアップ
デイサービス	個別機能訓練の算定を開始することができた。短時間利用により受入れの枠が広がった。運営推進会議をPRの場とすることができた。	新たな加算に向けての取り組み、ボランティア等を活用した活動の充実
認知症対応型共同生活介護	利用者、家族との密なコミュニケーションを図り、チームとして「その方らしさ」に着目したケアを提供することができた。	危険予知に対する意識の向上
ケアハウス	ケアハウスでの生活が困難となった際に、関係事業所や保証人等と連携し、適切な時期に他施設へ移る支援を行う事が出来た。	経年に伴う各居室の修繕と、ケアハウスの認知度が低い事への広報活動
総合相談	かがやきプラザ相談センター、あんしんセンターとの連携で柔軟な対応を行った。	地域包括ケアの中で役割の発揮。公益活動の充実
介護予防教室	・9教室計延べ3,016名の参加があった ・介護予防発表会に26名の参加で開催できた。	地域シニアボランティアの組織化
事務	・監査法人による法定監査に伴い、内部統制を意識して業務に取り組んだ。	収支状況の把握と収入確保
管理	・区より10年間の指定管理を受け、10年度目の最終年度を終了した。	一般避難所・福祉避難所・要配慮施設の対応検討

Ⅳ リスクマネジメント

1) 苦情・第三者評価

- ・苦情は4件。季刊しんあいに関する事、通所介護での介護に関する事、グループホームでの面会者に対する対応の事、町会活動の騒音に関する事、となっている。
- ・第三者評価を一般社団法人特養ホームマネジメント研究所で受審した。

2) 感染症等予防・蔓延防止の取組

- ・事業計画及び感染対策マニュアルに則り、それぞれの季節ごとに留意すべき感染症に気を配り、予防の意識向上を図った。また研修委員会と連動し年二回感染症研修を行った。
- ・1月下旬から短期入所を中心にインフルエンザが流行。2月1日から6日間、受入れを停止した。

3) 緊急対応・事故

- ・救急車要請18件(デイ4・短期7・GH2・CH6)ケアハウス入居者の救急搬送が昨年度の倍となった。
- ・状況報告の提出は18件あり。致命的な報告はなかったものの、薬に関するものが8件あった為、各事業とも業務手順の見直しを行うとともに、業務のスリム化を図る為の検討も提案した。

4) 防災、防犯

- ・地震や火災想定訓練のほか、岩本町ほほえみプラザは水防法等による避難確保計画の策定対象地域となっているため、水害対策の訓練を行った。
- ・施設侵入者に対する対応について、万世橋警察署員に来ていただき講話等学ぶ機会をつくった。

5) 勤務管理

- ・朝夕礼にて日々の勤務管理を実施し、配置基準の確認を行った。

V 事業別年間の実績概要

1) 入所部門

(単位：名)

	定員	利用者（実施数）				入院者数		新規利用		利用終了		平均		待機者
		延べ人数	月平均	稼働日数	利用実績（%）	実人数	月平均	実人数	月平均	実人数	月平均	要介護度	年齢（歳）	
短期入所	20	5921	493	365	81.1	—	—	75	6.25	—	—	2.7	87.4	—
認知症対応型生活介護	9	3135	261.2	365	95.4	0	0	2	0.1	2	0.1	2.7	93.5	—
ケアハウス	20	6304	525.3	365	86.3	5	0.4	3	0.3	4	0.3	0.9	85.5	2

2) センター部門

(単位：名)

	利用者（実施数）				新規利用		利用終了		平均	
	延べ人数	月平均	年間実人数	月平均実人数	実人数	月平均	実人数	月平均	要介護度	年齢（歳）
通所	6109	509.0	92	66.3	28	2.3	24	2.0	2.5	88.2
予防通所	301	25.1	8	4.1	3	0.3	3	0.3	—	83.2
認知症通所	1215	101.2	16	10.5	6	0.5	5	0.4	1.9	84.8
通所合計	7625	635.3	116	81.0	37	3.1	32	2.7	2.4	87.6

3) 地域支援部門

(単位：名)

	開催数	利用者（実施数）				新規利用		利用終了		平均年齢（歳）
		延べ人数	月平均	年間実人数	月平均実人数	実人数	月平均	実人数	月平均	
ヨガ教室	43	655	54.5	30	19.6	7	0.6	—	—	77.6
書道教室（水・木）	42	528	44	42	28.3	12	1	—	—	77.8
太極拳	35	290	24.1	19	11.0	7	0.6	—	—	74.4
カラオケ	35	556	46.3	30	19.4	7	0.6	—	—	
うた声	16	234	19.5	22	15	3	0.2	—	—	81.5
吹き矢	34	483	40.2	17	15.8	0	0	—	—	78.4
ビリヤード	34	208	17.3	11	7.5	4	0.3	—	—	78.2
絵手紙	12	62	5.1	10	5.1	5	0.4	—	—	73.2
訪問食事	—	1700	141.7	8.8		3	0.3	2	0.2	85.9

4) 苦情・事故報告

	延べ件数	月平均件数	解決件数	未解決件数	対応中件数
利用者からの苦情	2	0.17	2	0	0
事業所からの苦情	0	0	0	0	0
職員からの苦情	0	0	0	0	0
その他苦情	2	0.17	2	0	0
施設内事故	18	1.5	18	0	0
施設外事故	0	0	0	0	0